

令和5年度 学校教育自己診断 分析

生徒 (阪南高校に入ってよかった) 肯定率 76%

保護者 (阪南高校に入学させてよかった) 肯定率 87%

保護者の肯定率は昨年度の結果と変わってはいない。ただ、生徒の肯定率は下降した。学校生活を物足りないと感じている生徒がいることは予想される。今後は、コロナ前の制限のない取組みなども実施しつつ生徒の思いも汲み取り、さらに阪南高校を活性化することが大切である。

保護者 (学校は家庭への連絡や意思疎通をしっかりと行っている) 肯定率 72%

教職員 (必要な情報について、生徒・保護者や地域への周知に努めている。 肯定率 97%

ホームページの更新やメールマガジンの配信の回数が大幅に増えたことなどにより、昨年度よりも肯定率が増している。今後も保護者の方々としっかり連携していきたい。

(授業関連)

肯定率 生徒 75% 教職員 78% 保護者 69%

生徒のICT関連の肯定率は昨年度以上に高い。リーディングGIGAハイスクール事業の効果が生まれていると思われる。さらなる学力向上を図っていくことが大切である。

(進路関連)

肯定率 生徒 81% 教職員 72% 保護者 64%

R5年3月には、国立大学に5名が合格した。一般入試まで頑張り続ける生徒を育てていくことが大切である。

(人権教育関連)

肯定率 生徒 79% 教職員 88% 保護者 67%

昨年度と結果は変わっていない。教育相談委員会ならびに生徒情報交換会を中心に、SCやSSWの助言を受け、さまざまな事象の早期発見、早期対応を行っている。生徒が安全で安心できる学校であるために人権教育を推進していくことが大事である。